

伊那市創造館 「柘植伊佐夫による肖像画展・第2期」関連企画 実験表現イベント・トークショー&パフォーマンス「創造の森」 開催のお知らせ

伊那市創造館からのお知らせです。

現在開催中の「柘植伊佐夫展：記憶の人々（柘植伊佐夫による肖像画展）第2期」に関連して、
6月14日（土）、実験表現イベント「創造の森」を開催します。

1. 「柘植伊佐夫展：記憶の人々（柘植伊佐夫による肖像画展）第2期」開催中。

○伊那市出身の人物デザイナー柘植伊佐夫（つげいさお）氏による肖像画展「柘植伊佐夫展：記憶の人々・第2期」を開催中です。

- ・令和7年5月14日（水）～6月30日（月）
- ・創造館1階特別展示室 午前10時～午後5時30分
- ・対象 一般・入場無料

2. 実験表現イベント（トークショー&パフォーマンス）「創造の森」

- ・令和7年6月14日（土）
- ・創造館3階講堂 午後1時30分～午後4時
- ・（午前11時～午後2時の間、創造館前庭（創造の森）では喫茶や軽食などの出店も予定しています）
- ・対象 一般・入場無料・申込不要

○「創造の森」は、柘植伊佐夫氏のトークと様々なアーティストのパフォーマンスを組み合わせた新しい実験表現イベントで、伊那市創造館と伊那市ミドリナ委員会との連携によって開催します。

トーク：柘植 伊佐夫（つげ いさお）人物デザイナー

出演アーティスト：あをとまこ（あを/ボーイソプラノ・まこ/アルト）・都夏なおこ/ソプラノ-ダンス

・夏秋文彦/ケンハモ-口琴-コンツォフカ・平澤真希/ピアノ-オルガン・水谷浩章/コントラバス・

Lee Jiji/タブラ・ほか

●添付資料

「柘植伊佐夫展：記憶の人々 柘植伊佐夫による肖像画展 第2期 作品解説シート」

「創造館だより令和7年6月号 オモテ面」

本件に関するお問い合わせ先

2025

～縄文から宇宙まで～

6 創造館だより

monthly
report vol.168

柘植伊佐夫特別イベント：『創造の森』トークショー & パフォーマンス

個展『記憶の人々』を記念いたしまして、トークイベントを開催する機会をいただきました。企画を進めるにあたり、創造館が「上伊那図書館」であった頃、木々の中に美しく立つ姿を見ながら通学した思い出が蘇りました。その際に、「創造館とは(町の中にある森の入り口)ではないか」というように思いました。

そこで私が委員長を務めさせていただく「伊那市ミドリナ委員会」との共催で、「創造の森」という文化イベントを行うことを思い立ちました。

「森」から想起するイメージを、ちょっとした文化祭のような形に仕立てられないか、そのような実験です。『創造の森』というイベント名は、チームで名称を考えていた時に自然に出てきたものですが、後から、この(創造館の庭の名前)であるということを経験からお聞きしました。

これはまったくの偶然で、そのような出来事も、神様から後押しいただいているように思えた次第です。ぜひお越しください。

出演アーティスト(敬称略五十音順)

あをとまこ

あを ボーイソプラノ

まこ アルト

都夏なおこ ソプラノ、ダンス

夏秋文彦 ケンハモ、口琴、コンツォフカ

平澤真希 ピアノ、オルガン

水谷浩章 コントラバス

Lee Jiji タブラ、ほか

ほか

令和7年6月14日(土)

午後1時30分～午後4時 伊那市創造館3階講堂 入場無料・申込不要

午前11時～午後2時 創造館庭園(創造の森)では喫茶や軽食などの出店も予定しています。

※このイベントは柘植氏のトークと様々なアーティストのパフォーマンスを組み合わせた新しい実験表現イベントです。

※当日、柘植伊佐夫氏の新著「美人」の販売と、サイン会も予定しています。

※イベント内容・時間は、都合により変更になる場合があります。

創造の森

S P E C I A L E V E N T

Isao Tsuge Exhibition "PEOPLE OF MEMORY"

Ina City Sozokan × Ina City Midorina Committee



■電車利用…… JR飯田線伊那市駅より徒歩 4分

■バス利用…… 伊那バスターミナルより徒歩 3分

■自動車利用…… 中央道伊那インターより 15分

…… 中央道小黒川スマートインターより 10分

※お車でお越しの方へ

いなっせ駐車場など、市営駐車場をご利用の上、駐車券を創造館1階事務室までお持ちください。無料化いたします。

※ホームページは…

「伊那市公式」を検索 → www.inacity.jp

→ 伊那市の博物館・美術館・図書館 → 伊那市創造館

Jun. 2025



柘植伊佐夫

Tsuge Isao

人物デザイナー・伊那市芸術文化大使・伊那市ブランディングアドバイザー

1960年生まれ。

滝田洋二郎監督「おくりびと」など多くの映像作品のビューティディレクションを担当。08年以降、作品のキャラクター像をトータルで創造する「人物デザイン」を開拓。現在、衣装・ヘアメイク・持ち道具を統括し、人物デザイナーとして扮装を総合的に表現している。

主な映像作品に、NHK作品から『龍馬伝』『平清盛』『どうする家康』(大河ドラマ)、『精霊の守り人』(大河ファンタジー)、『ストレンジャー〜上海の芥川龍之介〜』(8K スペシャルドラマ)、『岸辺露伴は動かない』(ドラマ)。

映画は『メルド』(レオス・カラックス監督)、『拘束のドロイーイング9』(マシュー・バーニー監督)、『十三人の刺客』(三池崇史監督)、『翔んで埼玉』『翔んで埼玉 琵琶湖より愛をこめて』『はたらく細胞』(武内英樹監督)、『シン・ゴジラ』(庵野秀明総監督・樋口真嗣監督)、『シン・仮面ライダー』(庵野秀明監督)、『岸辺露伴 ルーヴルへ行く』(渡辺一貴監督)など。

舞台作品は、『六本木歌舞伎 座頭市』(三池崇史演出)、『赤兎』『MIWA』『Q:A Night At The Kabuki』(野田秀樹演出)、『あかいくらやみ〜天狗党幻譚〜』『王将』『常陸坊海尊』(長塚圭史演出)、『PLUTO』『舞台・エヴァンゲリオン ビヨンド』(シディ・ラルビ・シェルカウイ演出)などがある。

著書は『龍馬デザイン。』(幻冬舎)、『さよならヴァニティー』(講談社)。

人物デザインの傍で、絵画制作を行う。

柘植伊佐夫展： 記憶の人々 ISAO TSUGE exhibition: PEOPLE OF MEMORY

柘植伊佐夫による肖像画展 第2期

記憶の人々

わたくしは多くの人々に出会い、多くの映画や舞台のなかに登場する人物を創造する仕事を、長く勤めさせていただいています。

はじめに就いた仕事は美容師ですが、ご縁あってヘアメイクとなり、その後に先輩や仲間引き立てられて、「人の姿そのもの」を生み出す仕事に変わっていきました。

これまで進んでまいりました道は、偶然に後押しされて開かれた機会がほとんどでありましたから、特に強く目的を目指してきたのでもなく、流されてここまで来たのではないかと反省することもあります。そのような地に足がしっかりしていない私ですが、いつも心に現れてくる画像があり、それだけが自分にとって確かなことだったのかもしれません。

そのような「心の画像」をはっきりとさせようと、絵筆をとってタブローに向かう時がありました。それらの多くは人であったり、何かのイメージでした。

私に絵を教えてくれたのは亡き父でした。息子とは父親に抗う気持ちを抱くもので、私もその例外ではありませんでしたが、絵画について手を取ってくれたことを今も感謝しています。つまり父が、私にとって「記憶の人々」の始まりであることは間違いがなく、今回の展示はその記憶を辿る私的な旅でもあります。

柘植伊佐夫

第1期・令和7年3月29日(土)→5月12日(月)

第2期・ 5月14日(水)→6月30日(月)

伊那市創造館1階 特別展示室

午前10時～午後5時 入場無料

第2期展示絵画 (2025.05.14～06.30)



「黄色いドレスの女」2017年
モデルありきの実写ではなく脳内で描いた女性。家内をイメージしている。この頃は、モノクロなどの（灰色っぽい絵）と、本作のように（カラフルな絵）という二律の描き方をしていたように思う。



「帽子の女の肖像」 制作年不明
描いている女性はどれも家内をイメージしたもので、実在のモデルや写真はない。脳内での像を再構成しながら描いている。そのような意味では、写実的に描いているというよりは、抽象的な方法で人物像の記憶を追いかけていると言えるかもしれない。



「尚子素描」 2018年
エッチングのために描いた素描。家内が鎌倉で『オペラ・ハムレット』という演目を作・演出した際に、ハムレットの母ガートルードを演じた。その折のスナップショットを模写している。



「Religion」 2000年
長く西麻布に暮らしていた時期がある。木蓮の花を生けた日があった。しばらく放置していたから、綺麗に咲いたものがやがて朽ちていった。その様子が美しく崇高に思えた。それをモチーフにした抽象画である。



「水を飲む娘」 2004年
この題材は本作を含め2枚ある。娘がコップで水を飲む様子を写真に写して、できるだけ日常の一場面が切り取られているような雰囲気を目指した。ただし小さい方のこの作品は、写真をデジタル加工によって光学的に歪めて、虚実皮膜の雰囲気に仕上げた。これによって具象と抽象の狭間に落とし込んだ。



「父の手と子、その兄」 2008年
オーストラリアにコマースシャルの撮影で訪れた際に、そこにいた親子3人を撮影。それを元に描いた。実際は仲の良い兄弟であるが、私の中では旧約聖書の逸話「カインとアベル」がテーマとなっている。ゆえに半透化性の画材で赤い層をかけている。



「姉妹」 2008年
オーストラリアロケに出向いた時に、パースにあるプライベートビーチへ行った。そこで出会った姉妹に頼んで一枚ポートレートをとった。その写真を元にして、デジタル処理で一部分をネガポジ反転させて画像を作り、それを拡大模写している。これも、（虚構と現実の狭間）をテーマにしている。



「水を飲む娘」 2007年
水を飲む娘の写真を拡大模写した作品である。もう一枚の同タイトルの作品と素材は同じである。これに表面の光沢と保護用のニスを塗ったところ、長い時間に晒されて黄変した。これは描いた当初には想定していなかったが、さながらマルセル・デュシャンの『大ガラス』の（ひび割れ）のように作品に時間という（偶然性）を与えた。



「溶ける脳によって残るものを意識できない彼の人生の崇高 パート1」
「溶ける脳によって残るものを意識できない彼の人生の崇高 パート2」
2016年



父は認知症になっていった。昔から知る父でなくなっていくのはやはり心穏やかではなかったし、現実的に介護をどのような手立てでしていかなければならないのかという思いもあった。実際、さまざまな人々のお力沿いで天寿を全うできたわけだが、その父の脳内の様子をイメージして描いた。パート1で整然としているものがパート2では混沌としている。。



「放置された庭」2016年
父が認知症になったために実家は荒れた。庭いじりをまめにやっていた人柄も、病気となつては伸び放題になる。やがて施設にお世話になり空き家になった家はぼうぼうに生い茂る草木だらけになった。だとしても不思議と強い夏の日差しを受けると美しいのである。



「Garden#1」 2016年
『放置された庭』を抽象化したような、（そこに集う光）だけを抽出した「庭の絵」である。



- 電車利用 …… JR飯田線伊那市駅より徒歩 4分
 - バス利用 …… 伊那バスターミナルより徒歩 3分
 - 自動車利用 …… 中央道伊那インターより 15分
…… 中央道小黒川スマートインターより 10分
- ※お車でお越しの方へ
いなっせ駐車場など、市営駐車場をご利用の上、駐車券を創造館1階事務室までお持ちください。無料化いたします。
- ※ホームページは…
「伊那市公式」を検索 → www.inacity.jp
→ [伊那市の博物館・美術館・図書館](#) → [伊那市創造館](#)